

あゝ見よかしの森かげを
罪人のせし黒き馬車
町の方にぞいそぎ行く

煙

松寺久雄

こゝかしこ鶏なきて
をちこちに小鳥こゑして
世の塵を清くはなれし
曉の山かげの村

たちこむるもやのうちより
ゆくらく大空たかく
のぼりゆく朝けの煙
見るだにもこゝろ樂しき
遠方の高嶺は暮れて
夕鳥こゑにぎはしく
こゝの畦かしの畔ゆ
村人のかへりゆく方

木がくれのこゝにかしこに
そらたかくなびきあひつゝ
たちのぼる夕けの煙
見るだにもこゝろ樂しき

つらき世のかぜにふかれず
都邊の風になびかず
朝夕たなびく煙
見るだにもたのしきはれ其煙

旅の空

ふるさと忘れ今ははた
雁が音さゝてをどり立ち
あゝこひしなれし故郷

かすみこめたる山かげの
花のにはひに胸をどり
戀しき家兄いまいかに
月のひかりに涙おつ